

「Fusion Energy Conference (IAEA 主催)」の歴史に関する調査

Archival Studies on History of IAEA Fusion Energy Conference

難波忠清、雨宮高久¹⁾、植松英穂²⁾、松岡啓介、寺嶋由之介³⁾、大林治夫⁴⁾、藤田順治⁴⁾、黒田勉⁴⁾、橋本香苗、河本善子、木村一枝、花岡幸子

核融合研、日大院理工学研¹⁾、日大理工²⁾、名大(名誉教授)³⁾、核融合研(名誉教授)⁴⁾

NAMBA, C., AMEMIYA, T.¹⁾, UEMATSU, E.²⁾, MATSUOKA, K., TERASHIMA, Y.³⁾, OBAYASHI, H.⁴⁾,

FUJITA, J.⁴⁾, KURODA, T.⁴⁾, HASHIMOTO, K., KOHMOTO, Y., KIMURA, K., HANAOKA, S.,

NIFS, Nihon Univ. Graduate School of Sci. & Tech. ¹⁾, Nihon Univ. Col of Sci. & Tech. ²⁾,

Nagoya Univ. (Prof. Emeritus)³⁾, NIFS (Prof. Emeritus)⁴⁾

1. 調査研究の背景と目的

核融合研究の分野において最も重要な会議である「IAEA Fusion Energy Conference」は来年 2008 年に第 22 回目を迎える。来年の会議は、IAEA がこの会議開催を決める契機となった第 2 回原子力平和利用会議(1958 年)から数えて丁度半世紀という記念すべき会議にあたり、科学史のみならず核融合分野の研究者からも核融合研究の 50 年に関する歴史的資料に対する要望が多く出される事が予想される。そこで本年会では、「IAEA Fusion Energy Conference」に関する資料の所在および資料発掘についての調査結果と、内容調査の現状について報告する。

2. 調査研究の進捗状況

(1) 資料の所在調査: 「IAEA Fusion Energy Conference」についての基本資料として挙げられるのが、Proceedings である *Nuclear Fusion Special Supplement* や *Proceedings Series* である。これらの書籍は核融合科学研究所の図書館に所蔵されているが、他の大学図書館や研究所の所蔵情報についても調査し、その結果を研究者に提供する。

(2) 資料の発掘・収集: 「IAEA Fusion Energy Conference」についての資料は上記の Proceedings 以外にも多数存在している。例えば日本における核融合分野の学会誌である『プラズマ・核融合学会誌』(前身の『核融合研究』を含む)には、出席した研究者による会議についての会議報告が掲載されている(第 1 回、第 8 回以降は毎回)。これらは日本人の「IAEA Fusion Energy Conference」に対する見解を知る意味で、科学史研究における重要な史料となり得るものである。さらに我々は、他国の参加者による会議報告の有無についても調査している。特に米国の会議報告については Trip Reports という形で、その存在について確認済みで、現在その収集に取り組んでいる。

(3) 資料の内容調査: これまでに収集した資料は日本大学理工学部物理学科科学史研究室に所属する著者と核融合研に所属する著者とが共同で内容調査を行っている。本学会では特に日本人の活躍についての調査結果を報告する。その目安として、右図に「IAEA Fusion Energy Conference」における総発表数と日本人の発表数を示す。

3. 今後の課題

資料発掘・内容調査の拡充。本国際会議を通じて得られたエポックメイキング的な成果について、原資料に基づく調査を進める。これらは、50 周年を迎える来年度の各学会の年会などにおいて「IAEA Fusion Energy Conference」の歴史的推移として報告する予定である。

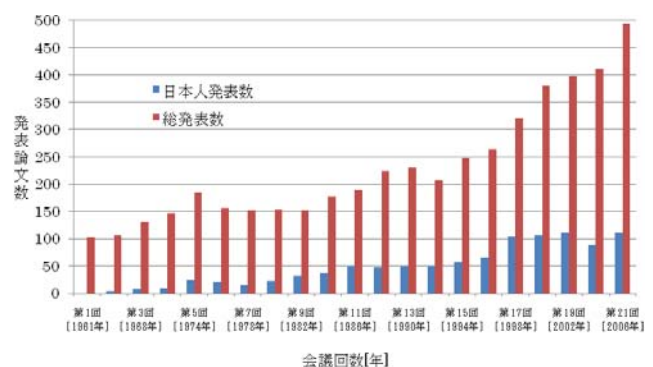


図1. IAEA Fusion Energy Conference における総発表数と日本人の発表数